

台湾でみごとな水耕メロンが収穫できました！

この「M式たより」も今月で70号となりました。一女性社員からの提案で始まったものですが、まもなく発刊6年を迎えることとなります。タイムリーな情報をお届けしようと、その時々M式の問題を掲載してきました。昨今ではこれがくるのを楽しみにしているという方も増え喜んでます。さて今月は台湾での話題です。

本年初め技術供与契約がまとまり、台湾での水耕施設建設、栽培指導を展開しております。台北近郊でゴルフ場を経営されているオーナーが、ゴルフ場内にハウス建設し水耕栽培に取り組まれているものです。下の写真にもあるように、現場へはカートで行く、作業員はキャディさんがあたるなど、この立地ならではの状況です。施設規模は、この場所以外にも2箇所、合計10,000坪にもなります。作目はトマト・キュウリ・イチゴ・パプリカ・メロンさらには葉菜までと多品目にわたっています。水耕栽培を開始して以来、半年

になりますが、順調な立ち上がりを見せております。そんな中から水耕メロンの話題をピックアップしてみました。

今日の日本で水耕メロン栽培は、ほとんど見かけなくなりましたが、かつては弊社農場でも盛んに取り組んだものです。ご承知のように台湾は、日本より温かく、そんな環境の作目としては合っている、台湾内で販売されているメロンは、ほとんど輸入品などの状況から選択されたものです。4月播種し、7月に一作目の収穫を終わりました。一作目にしては上々の出来映えで大変喜ばれました。ネット形成、糖度も基準をクリアしており1棟(150坪)で約800個のメロンを収穫し、ゴルフ場内で販売、あるいは台北市内の百貨店(三越など)、高級スーパーなどで販売し、好評だったとのこと。水耕で糖度がのるの?と疑問を抱かれる方が、いらっしゃるとは思いますが、根圏の水管理ができる水耕は対応が可能なのです。今回例のSARS

騒ぎで、4~6月訪問できない状況が続き、細かな現地フォローが、できなかったことから若干玉サイズが小ぶりとなってしまった事を除けば上出来の一作目と言えます。台湾での仕事を通して感じるのは、活気に満ちていた昭和40年代の日本の働き方、スピードの速さが台湾には残っているということでした。残念ながら、今の日本では見かけることが少なくなってしまいましたが、忘れていたものを思い出させてくれ、感慨を新たにすることができました。

今後はイチゴの収穫時期に入る、葉菜の栽培も始まるなど、当分眼の離せない状況が続きますが熱心な現地スタッフに支えられて、ひとつひとつ坂を越えられるのでは考えております。

また機会を見て報告をしたいと考えていますが、独自の販売路線構築も進められており、国内用途高級野菜産地として確立されていくのではと発展を願っています。(村井信二)



秋のM肥料キャンペーンが始まります！

恒例の秋の肥料キャンペーンが9/22~10/31実施されます。添付別紙案内参照ください！お早目の申し込みをお待ちしております！